

「コンパクトなまちづくりシンポジウム」のアンケートでいただいた主な意見について、アンケート回答者の主なご意見を下記のとおり、分類集計しました。ご協力ありがとうございました。

1 立地適正化計画に関すること

それぞれの拠点の存在価値をしっかりと考えて計画を作り、まちをデザインし、再生してもらいたい。

常盤公園の利活用も構想の中に盛り込んだら良いと思う。

居住誘導区域に、どのような施策で誘導していくのが重要だと思う。必ずしも大都市のように駅などの公共交通の結節点が核になるとは言えないのではないか。

市街地近郊の公立小・中学校周辺は、居住誘導区域とすべきではないか。

「拠点」を具体化（見える化）して、各拠点の内部に誘導をして欲しい。

拠点到インフラ投資（LRTなど）を行い、市民が積極的にコンパクトに住むしかけが必要ではないか。

立地適正化計画に沿いながら、住民が身近な自分達の地区に関する計画を作成して、整合性をとればいいのではないか。地区の計画は、大学等が担えないか。

立地適正化計画は、法的拘束力が無い。計画策定後、緩やかに進めていくのであれば、実現性の無いムダな計画を作るだけではないか。

立地適正化計画は、住居を移動させられるイメージを受け不安を感じる。

「人がメイン」でなくなるマネジメントが今日のシンポジウムで強調された様に感じる。本来、人口の増減、集中・拡散に合わせて、適正な公共施設、交通、医療・福祉等を整備・拡充あるいは縮小して行くものであると考える。先に都市・地域をデザインして人を移動させる、生活形態を変化させる考え方には同意しかねる。

第1次産業、特に農業従事者の居住をどうするのか、対策を教えてください。

都市住民のためのコンパクトシティは理解できるが、中山間地住民のための施策はどのようなものがあるのか。

コンパクトシティは、一部地域に集極化するというイメージがある。都市拠点・地域拠点以外の地域はどうなるのか。とり残されていく様に感じる。

誘導区域から外れる郊外の地域は、各段階の施策のなかで今以上にますます切り捨てられていくような不安を感じた。人口密集を望まない少数派には、住みにくいまちになる。

公共施設は行政によってコントロールできるが、商業施設をコントロールする方法を考えないと、コンパクトシティはうまくいかないのではないか。

具体的なイメージが浮かばない。予算的措置、見通しはどうか不透明である。これが高齢者の多くが望む姿か疑問を感じる。少子高齢化による街の盛衰は、行政でコントロール不能ではないか。成り行きに任せながら支援策を考えるべきと思う。

コンパクトなまちは地価の上昇が想定され、固定資産税の増加につながるのではないかとと思われるが、その対応策はあるのか。

山口県のような車社会においても駅周辺の開発が効果あるものになるのか疑問がある。

教育についてふれていないが重要ではないか。保育園・小中高が近くにないと住みにくいのではないか。

2 まちづくり全般に関すること

まちづくりの担い手の存在も重要だが、それをサポート、裏で主働する行政の力も重要と感じる。それぞれがうまくかみあい相乗効果が生まれると良い。

人口減少は、食糧問題、エネルギー問題等、プラスに働く面もあると思うので、コンパクトなまちづくりが上手くいくことで、様々なコストが抑えられれば、快適な生活ができるのではないか。

長期的な目標を示すことと、具体的なまちづくりの担い手が重要だと感じた。

都市計画の情報公開（提供）をもっと積極的にして欲しい。

公・民・学連携によるビジョンづくり、空間づくりが必要ではないか。

UDCU（アーバンデザインセンター宇部）を創って宇部の再生をお願いしたい。

西岐波地区の活性化の為に、萩原の市営住宅跡地の再開発が必要だと思う。

ゴミの回収ルートをコンパクト化する必要がある。

安全安心にも配慮し、防災（対自然、対人為）、及び生物多様性の豊かさを実感できるまち、エコなまちを希望する。

若い人達が他の都市に流出しないよう「にぎわう場」を作りたい。

宇部市の中心市街地における真の中心地は、今後の状況を踏まえて決定すべきで、宇部新川駅にこだわってしまうと、今までと何も変わらない。宇部新川駅にこだわらず、宇部線の内側にバスセンターを作る必要があるのではないか。

大学と中心部をもっと近付けた方が良いのでは、若者がいるのにもったいないと思う。

駅前の百貨店が撤退するケースが増えているが、コンパクトシティの実現に向けて商業と公共交通機関がWin-Winになるようなプランが必要だと思う。

人口減少時代のまちづくりは、様々な観点で、これまでのディベロップ（開発）やビルド（作る）によるまちづくりとは異なる対応が求められる。

急速な人口減、高齢化にはほんとうに対応できるのか心配である。公共施設、道路、橋、水道等の老朽化への対応すら難しそうなのに、更に再整備など、本当にできるのか。とても実現できそうにない気がする。

歩いて食料が買えるまちづくりが大事になり、高齢者への対策となる。

「結婚、出産、子育て」を重視すべきなのではないかと思う。人口がある程度増加し始めたら、そこから都市再生を考えれば良い。

宇部市で取り組んでいる子育てなどをPRする手段を考える必要があると思う。

3 交通に関すること

自動車全自動化時代におけるコンパクトシティのビジョンはあるのか。

バスの利便性の向上が必要

公共交通機関の利用促進と自転車道の整備で高齢者の利便性を図る必要がある。

宇部線と小野田線と山陽本線は“山手線”にできるのではないか。

宇部市の活性化の為に、宇部空港を有効利用すべきだと思う。

車社会の地方都市では、高齢になって歩けなくなっても移動手段として車を利用しているのが現状であることを重要を考えるべきだと思う。

道路構造が、自転車向けには全く造られていない。市民の意見を反映する窓口づくりが必要。